

|| 2024年度 || 明治大学・鯖江市連携

市民活躍講座

Vol.
02

11.10^{SUN} 10:30~12:00

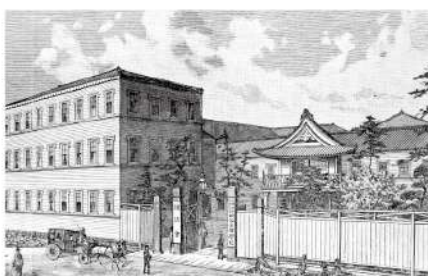
まなべの館(博物館)2階演習室

講義テーマ： 明治大学創立者・矢代操と鯖江藩

江戸時代の終わりごろ、鯖江藩の武士の子として生まれた矢代操は、明治時代になると東京で法律を学びました。そして、明治大学を創立します。また、矢代は学校経営・教育とともに元老院や貴族院などで官僚として活躍しました。

この講座では、矢代操の生まれ育った時代と鯖江藩、東京での学び、明治大学の創立について解説します。

近代日本のはじまり、新しい時代の幕開けに力を尽くした矢代の生涯を考えてみましょう。



講師／野尻 泰弘 先生



講師プロフィール 野尻 泰弘 先生（のじり やすひろ）

明治大学文学部専任教授、明治大学史資料センター運営委員

1974年福井市生まれ。1998年学習院大学文学部卒業。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学。学習院大学にて博士(史学)取得。2013年より明治大学に勤務。専門は日本近世史(村落史、地域史、藩研究)。

開催場所 まなべの館(博物館)2階演習室

対象者 どなたでも参加いただけます

定員 70名(定員になり次第締め切り)

料金 無料

申込方法



左記申し込みフォームQRよりお申し込みください。
または、下記問合先にTELにて氏名、連絡先をお伝えください。

申込締切：11月8日(金)

明治法律学校の創設

やしろ みさお
矢代操とは？



矢代操先生(明治大学史資料センター提供)

明治3年7月、貢進生制度が実施され、鯖江藩からは、矢代操が選抜され、現在の東京大学の前身・大学南校で学問を修めました。その後、司法省学校へと進み、フランス法律学の幅広い知識を身につけた操は、学生時代に出会った旧鳥取藩出身の岸本辰雄、旧天童藩(山形県)出身の宮城浩蔵と共に、明治14年(1881)1月に近代法学のパイオニアと称された明治法律学校の開校に尽力、明治法律学校は明治大学へと成長し、今も多くの優秀な若者を輩出し続けています。

※貢進生制度は、明治新政府が近代国家を築いていく新しい担い手を養成するため、全国各藩から優秀な人材を選抜し、教育する制度です。

【問合先】鯖江市市民生活部市民役推進課 TEL.0778-53-2214 Mail Shuyaku@city.sabae.lg.jp